

第6講座 古文

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔、男ありけり。身はいやしな*1がら、母なむ宮なりける。その母、長岡といふ所に住み給ひけり。子は京に宮仕へしければ、詣*2づとしけれどしばしばえ詣*3でず。ひとつ子にさへありければ、いとかなしうし給ひけり。さるに、師走*4ばかりに、「とみの事」とて御文あり。驚*5きて見れば、歌あり。

老いぬれば*5さらぬ別れのありといへばいよいよ見まくほしき君かな
かの子、いたううち泣*6きて詠める。

世の中にさらぬ別れの無*7くもがな千代もと祈*2る人の子のため

(『伊勢物語』)

5

*1 身はいやしな*1がら

*2 宮*2 皇族。

*3 かなしう*3 かわいがって。

*4 とみの事*4 急な用事。

*5 さらぬ*5 避けられない。

*6 見まくほしき*6 会いたいと思う。

*7 無くもがな*7 無ければいいのに。

問一 線①「御文あり」とありますが、だれからだれへの手紙ですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 男から作者へ イ 男から母へ
ウ 作者から男へ エ 母から男へ

問二 「老いぬれば……」の歌に込められている気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 新年を迎えたとまた一つ年齢が増え、死という避けられない別れが近づくので、いっそう早く会いたいという気持ち。

イ 年の瀬もせまり、あわただしさの中で、しきりと子どもたちの暮らし向きが気になり始め、なんとかしたいという気持ち。

ウ 千代の別れのあいさつは年内にすませて、正月にはゆっくり過ごしたいので、その準備を急がせたいという気持ち。

エ 新年を迎えると自分は遠くに移り住む予定があるので、早いうちに手紙を送り、別れを告げておきたいという気持ち。

問三 線②「千代も」のあとに省略されていると考えられる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 親は時を大切にしてほしい。

イ 親は愛を保ち続けてほしい。

ウ 親は長く生きてほしい。

エ 親は夢にも出てきてほしい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あるところに、女房あまたあて箏*1ひくに、琴柱のはしり失せたるを、さるべき男もなければ、宿直人の見ゆるを呼びて、この前裁の中に、楓*4の木二俣*5にこれほど、しかじか切りて来とこまやかに教へてやりつ。*6「は*7

かばかしきことあらじ」といふほどに、切りてもて来たり。簾のもとに寄^よりて、「このかり琴柱^{ことばしら}参らせ候はん」といひ出でたるに、思はずにあさましくて、「こまごまと教へつる、いかにをこがましく思ひつらん」と、恥^{はづかし}ちあへりけり。 (『十訓抄』)

* 1 女房 〓 宮中などに仕え、一室を与えられて住んでいた女官。

* 2 箏 〓 十三弦の琴。

* 3 琴柱 〓 琴の胴の上に立てて、弦を支える道具。

* 4 さるべき男 〓 適当な男。

* 5 宿直人 〓 宮中や役所に宿泊して勤務・警戒する人。

* 6 前栽 〓 草花・庭木を植えた庭。植え込み。

* 7 はかばかしきことあらじ 〓 (琴のことなど知らないだろうから) たいした期待も持てまい。

* 8 簾 〓 すだれ。

* 9 参らせ候はん 〓 さしあげましょう。

問一 文中で、会話を示す「」(カギ)をつけるとわかりやすくなるところが、一か所あります。その初めと終わりの三字を書き抜きなさい。

問二 線①「切りてもて来たり」の動作主を文中から書き抜きなさい。

--

問三 線②「あさましくて」の現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア とても驚いて。 イ 少し困って。
ウ 大変苦労して。 エ 大声で怒って。

--

問四 線③「恥ちあへりけり」について説明した次の文の a・b にあてはまる言葉を、a は 4 行目の「簾のもとに」以降の文中から十字以内で書き抜きなさい。b は最も適当なものをあとから選び、記号で答えなさい。

「恥ちあへりけり」は、「(女房たちが)お互いに顔を見合わせて恥ず

かしがった」という意味であるが、その理由は、自分たちの「a」行為が

ア 恥の上塗り イ 怪我が功名

ウ 釈迦に説法 エ 元の木阿弥

a							

b

三字・四字熟語

(1) 次の () に「不・無・非・未」のうちのどれかを入れて、三字熟語を完成させなさい。

- ① () (公式) ② () (理解)
③ () (解決) ④ () (満足)

(2) 次の () にあとの熟語のうちのどれかを入れて、四字熟語を完成させなさい。

- ① 空前 () ② 言語 () ③ 質疑 ()
④ 創意 () ⑤ 大同 () ⑥ 不言 ()

工夫 道断 絶後 小異 応答 実行

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

*1ひろまさん ① 博雅三位、月のあかりける夜、^{*2なほし}直衣にて、朱雀門の^{*3すざくもん}前に遊びて、夜もすがら^ア笛を吹かれけるに、同じ様に直衣着たる人の^イ笛吹きければ、誰^{タレ}人ならむと思ふほどに、その^ウ笛の音、この世に^{*4}たぐひなくめでたく聞こえければ、あやしくて、近よりに見ければ、いまだ見ぬ人なりけり。われものいはず、かれも言ふことなし。かくのごとく、月の夜ごとに行⁵きあひて、吹くこと夜ごろになりぬ。かの人の^エ笛の音、ことにめでたかりければ、試みにかれを取りかへて吹きけるに、世になき^オほどの笛なり。その後、なほなほ、月のころになれば、行きあひて吹きけれど、本の^{モト}笛^{*6}をかへし取らむともいはずりければ、長くかへて止みにけり。

(『十訓抄』)

*1 博雅三位 源博雅。醍醐天皇の孫。従三位。管弦の名人と言われた。

*2 直衣 高貴な人の平常服。

*3 朱雀門 平安京の大内裏の南面の正門。朱雀大路から宮城に入る入り口。

入り口。

*4 たぐひなく 比べるものがないくらい。

*5 夜ごろになりぬ 幾夜も続いた。

*6 かへし取らむ 返してもらおう。

問一 線①「月のあかりける」の「の」と同じ意味・用法のものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 朱雀門の前に遊びて

イ 直衣着たる人の笛吹きければ

ウ 月の夜ごとに行きあひて

問二 線②「遊びて」とありますが、古文中の意味として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 詩歌を楽しんで。

イ 仕事をせずに暮らして。

ウ 神事をとり行つて。

エ 管弦の遊びをして。

問三 線③「夜もすがら」の意味として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 宵のころ。

イ 夜の明けるころ。

ウ 夜どおし。

エ 月の出ないとき。

問四 線④・⑤の「ほど」の用法として最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 程度を示す。

イ 広さを示す。

ウ 距離を示す。

エ 時間を示す。

問五 古文について、次のように「ノート」をとりました。これを読んで、あとの(1)～(6)に答えなさい。

〔ノート〕

●登場人物

・「博雅三位」

・「同じ様に直衣着たる人」 〓 a 〓 「かの人」

●展開

1、「月のあかりける夜」の、「博雅三位」と「同じ様に直衣着たる人」との出会い

・博雅が笛を吹いていると、「同じ様に直衣着たる人」が笛を吹いていた。

・その笛の音が、この世に比べるものがないくらい **b** 聞こえた。

・博雅は **c**、近寄って見たところ、これまで見たことがない人だった。

・「われ」 **d** も、「かれ」 **e** も、何も言わず笛を吹いた。

2、「博雅三位」と「同じ様に直衣着たる人」との交流

・月の夜のたびに行きあつて、笛を吹くことが幾夜も続いた。

・博雅は、試しに（「試みに」）「かれ」 **f** を取りかえて吹いたところ、「世になきほどの笛」だった。

3、「その後」

・月のころになると、行きあつて吹いた。

・「本の笛をかへし取らむともいはざりければ」

← 博雅は、 **g**。

(1) **a** にあてはまる言葉を、古文中から六字で書き抜きなさい。

--	--	--	--	--

(2) **b** にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから

選び、記号で答えなさい。

ア すばらしく イ かわいらしく

ウ なめらかに エ こわくなるくらいに

(3) **c** にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから

選び、記号で答えなさい。

ア 信用できないので イ 疑わしくて

ウ 困って エ 不思議に思つて

(4) **d** **f** にあてはまる言葉を現代語で書きなさい。

--	--

d

e

f

(5) 線部「本の笛」とは別の「笛」を指しているものを、古文中

の線部「オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。」

--	--

(6) **g** にあてはまる内容として最も適当なものを次のうちから

選び、記号で答えなさい。

ア 笛を返してくれと言われてから長い年月を過ごした

イ 長い間、笛を返してくれと言わないでいた

ウ 笛を取りかえてから年月が経過し、困ってしまった

エ 長い間笛を取りかえたままになってしまった

--	--